

国際交流学科 ABROAD

Summer 2013



台湾: コミュニケーション・インターンシップ

台湾で行われたコミュニケーション・インターンシップに参加し、台湾の大学を訪れて日本語教育と交流活動の実践を行いました。訪れた大学は国立高雄餐旅大学と淡江大学、台北城市科技大学です。淡江大学ではキャンパスツアーをしていただいたり、台北城市科技大学ではホームステイも経験させていただいたりしました。日本語の授業実習は主に国立高雄餐旅大学で行い、レベルの異なる学生に平仮名や文法、ホテルで使う日本語表現を教えました。



私は現在、英語の教員免許取得と、副専攻の日本語教員養成課程の修了、児童英語員養成課程の修了を目指しています。今回のインターンシップは、資格取得のために学んできたことを実践することができるとても貴重な機会でした。昨年度、私はフロリダのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでの6ヶ月間のインターンシップに参加し、リーダーシップやホスピタリティーなどを学び、実際に勤務することでコミュニケーション能力の向上や臨機応変に対応する力を身に付けることができました。今回のインターンシップでは、これまでの留学経験や大学での免許取得のための過程がすべて活かされたと思います。グループのリーダーとして全員をまとめ、かつ、日本語を教える学生のことを考えなければなりません。初めは不安と緊張から、思うような授業ができずにいましたが、授業回数を重ねて反省点の改善を試みるにつれ、学生のレベルを考えて授業内容を組むことができるようになりました。この実践授業を通して得たもの、学生から学んだことを今後へと活かしていきたいです。

3年 山上祥子



Hong Kong: 海外留学奨励奨学制度

私は、今年の6月「海外留学奨励奨学制度」で香港に短期留学をしました。香港では、香港城市大学の学生とともに英語で授業を受け、市内観光で香港の文化に触れました。学生の皆さんは、広東語と英語を話せるので、私たちとは英語で話をしていました。授業では、香港の歴史と食文化について英語で講義を受け、英語を使ったアクティビティを通して楽しく英語を学べました。また、私たちは香港のメイド制度について調べるため、アンケート調査を行いました。

大半の方がフィリピンかインドネシアから家族と離れて働きに来ていて、ほぼ全員が満足しているという回答に私たちは驚きました。この結果を英語でプレゼンテーションし、香港の学生と先生方に聞いていただきました。この研修を通して、異国の地で異国の文化にふれ、現地の学生とのふれあいの中で良い刺激を受けることができました。

香港の学生の中には日本語を話せる学生も多くいて、私自身も英語だけでなく第二外国語の習得にも力を入れていきたいと思いました。この経験で具体的に見えてきた自分の課題に取り組み、英語力を向上させ、さまざまな研修に積極的に参加して、グローバルな視野を得たいと思います。

1年 山口萌



California : 国際交流研修（海外）

私はカリフォルニアでの国際交流研修に参加する2ヶ月ほど前に、大学から奨学金を頂いて「海外留学奨励奨学制度」で香港に行きました。そして香港で得たことを活かし、さらに新しいことを吸収したいという理由から、国際交流研修(海外)への参加を決めました。この研修では JASSO（日本学生支援機構）から8万円の奨学金を頂くことができたとき、嬉しさと同時に責任感も生まれました。そして9月、私達はカリフォルニア大学リバーサイド校に行きました。研修期間中はホームステイで、朝はホストファミリーに大学まで車で送ってもらいます。午前中は英語でプレゼンをするを中心とした、学生参加型の授業を受けました。

午後は、幼稚園ぐらいの子どもや高校生、そして耳の不自由な子ども達がいる学校をいくつか訪問し、日本語と日本の文化を伝えました。日本語は主に書写を用いて教え、日本文化は折り紙を教えました。日本ですら子ども達に日本語、日本文化を教えたことがない私達にとってとても大変なことでした。

教える上での一番の壁はやはり「言葉」でした。まだ英語を学んでいる段階の私達は自分が持っている英語力を最大限に活かし、ジェスチャーなども用いて伝えることができました。しかし、耳の不自由な子ども達が通う学校では、さらに高度なコミュニケーション力が必要でした。ジェスチャーや研修前に覚えたばかりの単純な手話、文字などで交流が行われました。子ども達は私達が必死に伝えようとしていることを理解しようと積極的に取り組んでくれました。ここではお互いが相手を一生懸命理解しようとし、子ども達とは言葉がなくてもコミュニケーションをとることができました。本当のコミュニケーションと言うのはお互いに相手の心、考えていることを理解しようとするところから生まれるもので、話すことだけがコミュニケーションのすべてではないと感じました。この研修を通して、コミュニケーションの新たな一面を知ることができたと実感しています。

1年 幸地顕成

アメリカの学校での体験も私達にとってはとても良いものでしたが、カリフォルニアの歴史について学んだことも素晴らしい経験でした。まず、カリフォルニアの成り立ちについて欠かせないのは「ミッション」です。ミッションとは、スペインがその土地を支配するためにアメリカの先住民族をキリスト教に改宗させるための伝導所です。いまだにその場所が残っていて見学できたことはとても興味深く、その当時の生活の様子や労働、先人の知恵などを知ることができました。地域を統治するためとはいえ改宗や労働を強要したことと、その上に今のカリフォルニアの繁栄があることを私達は深く考えなければいけないと思いました。

そして日系アメリカ人博物館では第二次世界大戦中、日系アメリカ人がどのように過ごしていたかを理解することができました。博物館では当時の生活の様子が模型などでよく理解できました。また平和の大切さを再確認しました。

世界の中で色々な紛争が起きていることについて私達はより真剣に考えていかなければならないと思いました。滞在中、私達は全員ホームステイを体験しました。10日間という短い間でしたが、ホストファミリーとの会話を体験し、

アメリカの家庭の文化を知ることができとても充実した時を過ごすことができました。

1年 木村由比子

Summer Program at UCRiverside

私はカリフォルニア大学リバーサイド校で行われたサマーセミナーに参加しました。英語のクラスには、中国、韓国、台湾、カザフスタンから来た学生と一緒にでした。周りの学生はみな私より英語が上手だし、先生はもちろん日本語を話さないの、最初は本当に辛かったです。でも、最後の授業でプレゼンテーションをするために何度も話し合いをしました。そのとき私は、英単語をもう少し多く知っていたら、会話力があつたら、自分の考えや思っていることをもう少し伝えることができるのと思いました。アメリカに来て、授業の宿題は自分のためだということがよくわかりましたし、相手と仲良くなり、話したいという気持ちが強くなりました。

授業のほか、さまざまなアクティビティに参加しました。現地の高校生がボランティアで来て、一緒にスポーツをしたりピザを作ったりして過ごしました。自由時間には、ディズニーランドやサンタモニカビーチなどを訪れ、すべての場所で大切な思い出ができました。みなさんにも実際に行って思い出を作ってください。私はもう一度カリフォルニアに戻り、英語を学びたいです。そう思えるのは、3週間という時間を一緒に過ごしたホストファミリーに出会えたからです。最初は不安でしたが間違ってもいいから話したいと思うようになり、話すことが楽しみに変わりました。日本に帰ってきて1ヶ月以上たった今でも、電子辞書を片手にメールでやり取りしています。カリフォルニアへ行ったことで英語に対する思いははっきりと変わりました。これから地道に努力し、今の私には大きすぎるかもしれない夢を絶対に叶えたいです。サマーセミナーは私に変わるチャンスを与えてくれました。みなさんにもそのようなチャンスを大切にしてもらいたいと思っています。



1年 須貝桃子

Korea: Asia Summer Program

私は、釜山で行われたアジアサマープログラムに参加してきました。期間は3週間で、私たちは東西大学の寮でルームシェアをしました。私のルームメイトは東西大学の学生で、本当に楽しい毎日を過ごしました。プログラム期間中、2つの講義を取ることができ、私は“Fundamental of Speech”と“Understanding Korean Cinema”を履修しました。私にとってこれらのクラスは本当にためになりました。

スピーチをする際のルールや話し方、効果的な方法などを、毎日スピーチの練習をしながら勉強することができました。また、韓国の映画を鑑賞し、韓国映画がどのように出来てきたかを学びました。他にも、このプログラムのために多くのアクティビティが用意されていて、そのすべてに参加しました。とても刺激的で楽しい経験でした。このプログラムには、アジアのさまざまな国から学生が集まり、たくさんの友達を作ることができました。私はこのプログラムでアジアを以前より深く知ることができ、本当に貴重な経験ができました。また機会があればこのプログラムにぜひ参加したいと思っています。

3年 佐藤安里

Summer Seminar in Malaysia

マレーシアでは英語を学べるだけでなく、様々な民族や宗教を持つ人々が一つの国に共存していることから、それらの文化や宗教についてもっと知りたいと考えてこのプログラムに参加しました。現地では学生たちと毎日交流する時間があり、とても多くの人とたくさんのかたを英語で話す機会がありました。



また、マレー料理や、マレーシアの人々が持つ宗教観についても質問することができて、毎日が驚きの連続でした。今回このプログラムに参加したことにより、英語力が身に付いただけでなく、マレーシアの文化や宗教についても学べ、また日本語を海外の人にどのように伝えたらわかるのかといったヒントを得る事もできました。当初興味を持っていたこと以上のことが学べたので、参加してとても良かったです。

1年 高橋菜美



Summer School of Slavonic (Czech) Studies

私は今学期、チェコ語の授業を履修し、夏にはチェコ政府から奨学金をいただいて、チェコ共和国のブルノにあるマサリック大学で行われた1ヶ月の語学研修に参加しました。ブルノでは、月曜日から土曜日までの午前中、文法の授業がありました。そして、2日に一回、午後に会話の授業がありました。また、その授業はプレメントテストを受け、レベル別に分かれていました。私は基礎クラスで、英語で授業を受けていましたが、他のクラスは全てチェコ語でした。

昨年度、私はフロリダのディズニー・ワールド・リゾートでのインターンシップで、アメリカに6ヶ月間いましたが、その時とは全く違う印象をチェコから受けました。朝から働き、予定時刻にはきっちり来るチェコ人に日本人との類似点を感じ、親近感が湧きました。またブルノでの1ヶ月間は学校が用意したホステルに泊まりました。私には、ベルギー人のルームメイトがおり、英語とチェコ語を混じえて会話をしていました。この1ヶ月間、チェコ語が理解できずに悩んだ日々もありましたが、予習と復習をし、文法を理解することにより授業が楽しくなりました。そして、スペインやベルギー、イギリス、ブルガリア、韓国など様々な国から来ている学生とチェコ語でコミュニケーションを取ることができました。今後はチェコ語力の向上だけでなく、日本との類似点などをさらに深く勉強し、グローバル社会、国際的な社会で活躍できるよう人材になれるように努力していきたいと思います。

3年 氏家周子

Summer Program at the University of Lodz

私はポーランドのウッチ大学でのサマープログラムに参加しました。1年次には海外留学奨励奨学制度でカリフォルニア大学リバーサイド校、2年次にはハワイ大学ヒロ校に交換留学生として派遣されました。今回は、これまで以上に積極的に外国の方とコミュニケーションを取ることができ、ハワイで培った語学力を生かすことができました。



サマープログラムのテーマは“Human Resources”で、ポーランドの大学の先生はもちろん、多くの大学から来た先生の講義を受講しました。そして、参加した学生は、いくつかのグループに分かれ、それぞれテーマを決めてプレゼンテーションを準備し、最終日に発表を行いました。

研修先にはスペインやエクアドル、ハンガリー、チリ、ブラジルから来た学生がいて、楽しく会話をすることができました。このプログラムには日本人は私たちの大学からの学生3人しかいなかったため、日本に興味を持つ学生からさまざまな質問をされました。主に、東日本大震災後の日本の現状や、政治について尋ねられました。週末には、ポーランドの学生がウッチの有名な場所に連れて行ってってくれました。また、今回の研修で知り合ったブラジル人の学生と一緒にクラカウやアウシュビッツ、ワルシャワを訪れ、ポーランドの歴史と文化を学ぶいい機会となりました。今回の研修では、これまで会ったことがなかった国の人と出会って、その文化を学んだり、逆に日本のことを教えたりすることができました。それによって日本の現状を改めて実感し、自分の語学力の向上も感じるすることができました。

3年 清野有沙